

令和 6 年度 園評価書

園番号 54

園名 静岡市立和田島こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
「心豊かでたくましい両河内の子」	自分の「好き」をつたえよう	自ら進んで身近な人と挨拶をする	○保育教諭が一人一人と笑顔であいさつをすることで、子どもたちが挨拶を交わす嬉しさを感じ、進んで挨拶ができる子が増えた	A	A	○子ども達が様々なことに夢中になって本気で取り組む姿が見られた ○遊びの中に学びの本質があるのが理想。今後も子どもの思いに沿った教育を続けてほしい	○引き続き保育教諭が、子どもが安心できる関係作りを行い、一人一人と挨拶を交わし、子どもが自分から挨拶できるようにする
		自分の好きなことを試したり工夫したりしながら夢中になって遊ぶ	○遊びの中での個々の興味や楽しさに保育教諭が寄り添い“やりたい”と思えるような素材や玩具を用意することで子どもが自ら遊び始め、「こうかもしれない」と考えて試してみようになった	A	A	○友達に自分の思いを伝え、受け入れてもらった経験が今後の伝え合いにつながっていくと思う	○保育教諭が子どもと一緒に遊ぶ中で一人一人が感じている楽しさや興味を理解し、試す・工夫することができ環境構成を行う
		好きなことやおもしろかったことを伝えながら友達と一緒に遊びを進める	○保育教諭が子どもの話をよく聞いて自分が思ったことを伝えられるよう関わった。関わりがうまれるような環境構成を行うことで自分の思いを保育教諭や友達に伝えようとする姿が見られたが、自分の思いが強く、まだ一緒に遊びを進める	B	A	○安心して思いを伝えられる環境があることを感じる	○毎日振り返りを行い、遊びの中で楽しかったことや、思ったことを話せる時間をもつ。友達がしている遊びや相手にも様々な思いがあることに気づけるよう、保育教諭が仲介していく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	遊びや生活を通し異年齢で関わり、思いやりの気持ちを育てる	○職員間で遊びや行事について話し合いを密にもち、連携して異年齢保育を進めたので、子ども同士が自然と一緒に遊ぶようになり、年下の友達に遊び方を教える姿が見られる	A	A	○クラス同士でつながりをもち、遊び環境を工夫することで、異年齢での関わりが多く、安心して遊んでいる	○遊びの内容や理解に差があり、遊びが途切れてしまうことがあったので各年齢の発達の違いを考慮しながら関わり、各クラスのねらいを共有しておく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切にし、安心して過ごせるようにする	○一人一人と丁寧にコミュニケーションをとりながら心身の体調の変化に気を配るようにした。家庭と子どもの様子を伝え合い、個人差に配慮した関わりを行うことで、子どもたちが安心して過ごしている	A	A	○生活リズムが整うと心も安定してくると思うので朝の登園時間から整えていけると良い。楽しみな活動があることも1つの方法だと思う	○家庭との連絡を大切にし、その子に合った生活リズムで過ごせるようにする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「もっとやりたい」「友達と一緒に遊びたい」と思える環境作りをする	○子どもの興味に寄り添い、遊びの中での子どものつぶやきを捉えて、アイデアが実現できるような環境作りを行うことで「明日はこれで遊ぶ」と期待したり、遊びのイメージを広げたりすることができた	A	A	○保育教諭が子どもと一緒にたくさん遊び、興味関心を捉えて教材を工夫することで子どもの遊びへの意欲が高まった	○子どもがその遊びのどこを楽しんでいるのかを保育教諭が理解して、環境作りを行っていく。一人一人のおもしろさに寄り添いながら、友達の遊びにも気づけるよう関わっていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	交通安全や避難訓練、不審者対応訓練を通して自分の身を守る行動を身につける	○紙芝居を使い、子どもたちに分かりやすく話をしたり、様々な想定で訓練を繰り返し行うことで、自分についてきている。避難訓練や不審者対応訓練では真剣に訓練に参加し、自分の身を守るために気をつけることを理解している	A	A	○両河内の自然を十分に感じながら園での遊びを楽しんでいる。保育者や友達と一緒に遊ぶ中での経験が積み重なっている	○地域と連携し、日頃から様々な危機意識や新しい防災知識を理解して、様々な想定のもとで訓練を行う。散歩時には自分から交通ルールに気づけるよう繰り返し声をかけていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが自ら手洗いやうがいをし、健康に過ごせるよう支援している	○手洗いやうがいがしやすいように掲示し、子どもが気づいて自分で動けるような言葉かけをすることで、自分から進んで行う子が増えた。しかし、他のことに気が向いていると雑になったり面倒がったりすることもあった	A	A	○避難訓練は実用性の高い内容で行う必要がある。常に訓練の様子や避難方法について地域と連携をとって進めているので、安全について重要視していると感じる	○子どもの様子を最後まで見届け必要な時に声をかけていく。また、厚着をしすぎないことや咳エチケット、鼻を拭く等を自分で考えて行っていく機会を作る
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達を職員間で理解、共有をし、支援している	○特別支援に関する研修に多く参加し、学んだことを周知して自園での支援に生かした。職員間が一人一人の発達や特性について共通理解をしていることで、保育教諭がその子に合わせて具体的に支援することができた	A	A	○特別支援を必要としている子が年々増加しているので特別支援に関する研修には今後も力をいれていくべき。適切な支援につなげ、その子が健全に成長できるようにしたい	○一人ひとり性格やベースに違いがあるため、子どもの姿を職員会議で確認し合いながら、具体的な支援方法について考えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営を進めている	○分掌担当者が役割を果たし、見通しをもって計画、準備を進めることができた。また、全職員で協力し合いながら様々な行事を進めることができた	A	A	○園内研修を通して子どもの状況に応じた指導の見直しがされている	○職員数が少なく、分掌業務において個々の負担が多いことを踏まえ、職員間の伝え合いを大切に。そして分担や協力をしながら、今後も職員一丸となって園運営を進めていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	園内研修で、子どもの「伝えたい」気持ちを育むための、思いと思いをつなげる関わりの方や環境構成を学び合う	○園内研修の事後研で遊び環境や教材の使い方、子どもの姿と保育教諭の関わり方を共有した。こうすることでその後の遊び環境の作り方や子ども理解につながり、子どもが“楽しい”と感じたことを周囲に伝える姿が見られるようになった	A	A	○身近に壮大な自然があることが大きな強みなので、小人数というハンディを補いながら、実体験をたくさん積めると良い	○今後もしも子どもの興味や関心を捉え、「これが好き」「明日もやりたい」と感じられるよう関わったり、環境構成を行ったりできるよう園内研修を重ねていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節に合った遊びや、発達に必要な体験が得られるように環境を用意している	○その時々々の季節に合った体験ができるよう環境を整えたり、園外保育にでかけたりすることで、子どもたちが自発的に考えたり、色や形、組み合わせ等を工夫したりして遊ぶようになった	A	A	○クリスマス、野菜の収穫など季節が感じられる行事を行うことで、地域の方と関わりをもつ機会が生まれ、地域の良さを生かした取り組みとなっている	○子どもたちの成長や季節に合わせた環境に保育教諭の願いを重ねて環境構成し、保育教諭も一緒に遊ぶ中でどのように関わるか考えていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	様々な手段で園から情報を発信し、保護者と一緒に子どもの育ちを支えている	○登降園時のお知らせボードやドキュメンテーションで、写真を多く使って、こども園での活動の様子や子どもの姿がより伝わりやすいように工夫した。送迎時の会話や面談を通して、子どもの成長が分かるように丁寧に知らせた	A	A	○小中学校の活動や地域の行事への参加は“地域のみんなに愛されている”という信頼感・安心感につながるのでもっと積極的にやってほしい	○遊びの中での子どもの成長や日々の様子を伝えられるよう、引き続き掲示物や伝え方を工夫しながら、家族と連携し子どもと関わっていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	地区の小中学校と情報交換や交流を深めるとともに課題を共有し連携する	○幼小連絡会で小学校の先生方と話し合うことで、小学校の様子や、卒園した子たちの様子を知ることができた。また、度々小中学校に行き交流することで、身近に感じて憧れを持つことができ、学校への親しみが高まった	A	A	○今後も積極的にやってほしい	○引き続き小中学校に協力を求め、今後も交流を継続して行う。子どもの様子を互いに見合う中で情報交換や課題の共有をしていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園外保育や地域の行事に参加することで地域の人と関わりをもつ	○地域のイベントに参加したり、散歩や畑活動で園外に出かけたしながら、様々な体験を地域の方の協力のもと行うことができた	A	A		